

3. 妊娠中に原因不明の発熱から DIC をきたし

hemophagocytic syndrome (HPS) が強く疑われた 1 症例

(母子センター) 杉崎亜矢・井植慎一郎・工藤美樹・
岩下光利・中林正雄・武田佳彦
(血液内科) 溝口秀昭

4. ヒト巨核球系細胞の成熟過程における転写因子の検討

(血液内科) 小林祥子・寺村正尚・伊藤慶子・
吉永健太郎・岩部弘治・溝口秀昭
座長 (血液内科) 溝口秀昭

特別講演

AT-III 欠損症の分子生物学的背景

(京都府立医科大学附属病院輸血部・第二内科学教室 助教授) 辻 肇

1. 不安定狭心症における von Willebrand 因子および凝固線溶系の変化

(国立横浜病院循環器科)

太田吉実・青崎正彦

(東京女子医大心研内科)

山内貴雄・岩出和徳・大木勝義

【目的】不安定狭心症の発症機序として、冠動脈粥腫の崩壊およびそこにおける血栓形成が重要視されている。von Willebrand 因子 (vWF) は、血管内皮傷害時に、より反応性の高いマルチマーの放出反応が起こることが知られている。また血栓形成の第一段階である内皮下組織への血小板の粘着と凝集は、vWF に依存していると考えられており、特に high shear stress 下の狭窄冠動脈内の血栓形成においては重要な役割を果たしている可能性があるが、不安定狭心症と vWF との関係についての研究は少ない。我々は、不安定狭心症における vWF、およびその他の凝固線溶マーカーの動態を測定し、その意義を検討した。

【方法】対象は不安定狭心症 (UA) 20 例 (平均年齢 64 歳, 男性 16 例 女性 4 例) および安定労作性狭心症 (SA) 20 例 (平均年齢 60 歳, 男性 18 例 女性 2 例) である。UA は、最終狭心症発作から 24 時間以内の急性期と、7 日以上経過した後の緩解期の 2 点において採血検査を行った。SA は、早朝空腹時に採血を行った。それぞれの検体につき、vWF, thrombin-antithrombin III complex (TAT), D-dimer を EIA 法にて測定し、比較検討した。使用した測定キットは、vWF は Asserachrom vWF (Boehringer Mannheim), TAT は Enzygnost TAT (Behring), D-dimer は Dimer test EIA (Agen) である。

【結果】vWF は、UA 急性期では SA に比し有意に高値を示し (145.2 ± 60.8 vs $111.5 \pm 40.0\%$, $p <$

0.05), 緩解期では有意な減少を認めた ($110.3 \pm 35.6\%$, $p < 0.05$ vs 急性期)。TAT は UA 急性期で高値を示し、緩解期に向かい有意な減少を認めた (6.1 ± 6.2 vs $4.7 \pm 4.6 \text{ ng/ml}$, $p < 0.05$)。SA との比較では急性期・緩解期のいずれも有意に高値であった ($2.3 \pm 0.9 \text{ ng/ml}$, $p < 0.01$ vs 急性期, $p < 0.05$ vs 緩解期)。D-dimer 値は UA では急性期・緩解期とも上昇を示し、いずれも SA に比し高値であったが、統計学的有意差は得られなかった (US 急性期 $180.1 \pm 146.0 \text{ ng/ml}$, UA 緩解期 $203.4 \pm 162.0 \text{ ng/ml}$, SA $124.3 \pm 69.5 \text{ ng/ml}$)。

【総括】UA 急性期において vWF の一過性上昇と凝固線溶能の亢進を認めた。これは冠動脈内皮の傷害に起因するものと推測され、同時に vWF の増加が冠動脈内血栓形成をより促進している可能性が示唆された。また凝固線溶亢進状態は UA 緩解期においても持続しており、subclinical な冠動脈内血栓形成が続いていることが推測された。

2. 虚血性脳血管障害患者における活性化血小板の測定

(神経内科) 山崎昌子・内山真一郎・

橋口孝子・岩田 誠

【目的】虚血性脳血管障害患者 (ICVD) において血小板活性化を検出するため、フローサイトメトリー (FC) により血小板フィブリノゲン (Fbg) 結合能と p-selectin 発現率を測定し、臨床的有用性を検討した。

【方法】対象は ICVD 133 例 (男性 82 例 女性 51 例, 年齢 65 ± 10 歳) で、病型は心原性脳塞栓症 (CECI) 7 例, アテローム血栓性脳梗塞 (ATCI) 28 例, ラクナ梗塞 (LACI) 71 例, TIA 27 例であり、他の神経疾患患者 18 例 (男性 9 例 女性 9 例, 年齢 56 ± 12 歳) を対照